

## 2023年12月号のテーマは！ 2024年度は負担増!? 電気代の動向を解説！

今月号では2024年度の電気代の動向について解説いたします。昨今皆様の負担を大きくしている電気代が2024年はどう推移するのか、そして高騰する電気代への対策方法をご紹介します。

### 2024年度は再エネ賦課金単価が上昇見込み

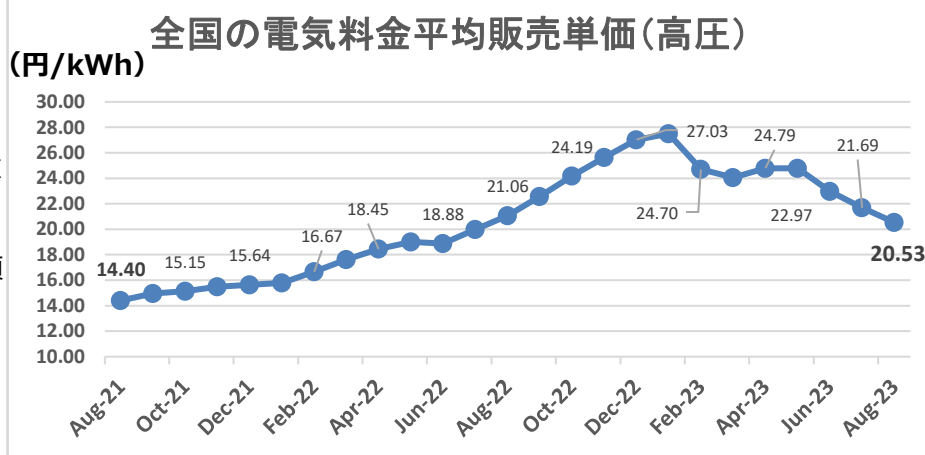
電気料金を構成する要素の一つとして再生可能エネルギー発電促進賦課金があります。こちらは年に一回更新される単価になっており、再エネで発電した電気を電力会社が買い取る際に必要な金額の一部を国民で負担するものとなります。

2012年度から始まったこちらの制度の単価は年々上昇傾向にあり、0.22円/kWhで始まった単価は2022年度には3.45円/kWhにまで上昇していました。再エネ賦課金は市場価格が高騰すると翌年の単価が下がり、市場価格が落ち着くと翌年の単価が上昇するような決め方となっております。2023年度は市場価格が急騰したため単価が1.40円/kWhと制度開始以来初の下落となりました。2024年度は2023年度の市場価格が比較的安定しているため、**2024年度の再エネ賦課金単価は2023年度に比べて上昇する見込み**です。



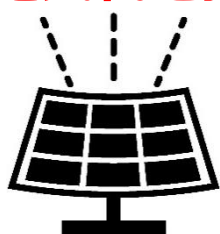
### 今後も電気代は上昇する見込み

2023年は電気代負担軽減策によって電気料金が一時的に若干減少傾向にあります。しかし2023年2月～9月検針分までが低圧で**7.0円/kWh**の補助であったことに対して2024年2月～5月検針分までは半額の**3.5円/kWh**、6月分はさらに半額の**1.8円/kWh**と補助額が減っています。そして前述の通り再エネ賦課金単価の上昇も予測されているため**2024年度は今年以上に電気代の負担が大きくなる**ことが考えられます。



参考:各電力会社発表資料

### 電気代を抑える方法



自家消費型太陽光発電は、自社の工場の屋根に太陽光発電を設置し、発電した電気を自社で利用する太陽光発電のモデルのことを指します。

自家消費型太陽光発電は発電した電気を自社で利用することによって、その分電力会社から買う電気(従量料金・**再エネ賦課金**・燃料調整費)を減らすことができるため電気代の削減につながります。

↓ 詳しい導入効果は次のページへ ↓



# 弊社の施工事例をご紹介します！



業種	福祉業
設置場所	徳島県阿南市
システム容量	19.92kW
プラン	余剰売電
年間発電量	24,698kWh
電気代削減 売電収入	419,612円/年
投資回収年数	7年



担当者

福祉施設屋根に設置。電気代の削減はもちろんのこと、災害時の非常用電源としても活用ができます。多くの方が集まる施設は、災害対策としての活用も期待され、安全安心な施設運営に役立てることができます。

## よくあるご質問

### Q1 太陽光発電設備の導入費用はいくらですか？

A1

設置できる屋根面積や形状により変わります。  
また使用されている電力量によって、必要な設置容量が異なり費用も変わりますので、詳細はご相談ください。

### Q2 シミュレーション作成の費用はいくらですか？

A2

無料で見積・シミュレーションを作成致します。  
その内容を確認の上、ご検討ください。

 未来環境エネルギー計画 株式会社

☎088-660-6667

受付時間 9:00～18:00（休業日：土日祝）

住所：〒771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜字川久保87番地1  
FAX：088-660-6668  
Email：support@mirai-ecoene.com 担当：亀谷

▼徳島で自家消費型太陽光なら未来環境エネルギー計画▼

未来環境エネルギー計画

検索

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

